

1 プロジェクト内容

(1) プロジェクト名	図書館の新たな魅力創出プロジェクト
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・このプロジェクトでは、大学コンソーシアムせと加盟大学の学生運営委員が、若い感性を活かしたアイデアを取り入れてイベント等の企画運営を行い、他大学との交流の機会となった。また、イベントを通して高校生や地域住民との関わりが生まれ、地域社会への貢献の場となった。 ・YouTube を使ってビブリオバトルの配信(後日でも見られるよう動画として残した)をしたり、Instagram でビブリオバトルの宣伝や学生運営委員のおすすめ本の紹介を投稿したりと、各メディアを活用して読書啓発を行うことができた。 ・学生運営委員が作成した読書啓発グッズ「ブックカバー用台紙」は、市内の小中高校や施設に配布した。「ビブリオバトルの開催を多くの人に知ってもらいたい」「多くの人に本をよんでもらうキッカケとなってほしい」という想いの基、作成・配布を行なったが、無くなったため追加を送ってほしいという施設もあるほどだった。 ・高校生4名が発表者として参加、更に今回は瀬戸高校のメディア部が特別審査員のトークショーの司会を務めてくれ、若い力が存分に発揮された活気ある場となった。
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	<p>4月1日～6月9日 学生運営委員の募集・学生運営委員の決定 愛知工業大学1名 金城学院大学3名 名古屋学院大学2名 名古屋産業大学1名 南山大学2名 (合計9名)</p> <p>5月16日 第1回プロジェクトメンバー打ち合わせ <会場>瀬戸市立図書館 2階 ボランティア室 <参加者>プロジェクトメンバー5名 <内容>スケジュール、学生運営委員の活動内容、開催内容等の検討</p> <p>6月24日 第1回学生運営委員会 <会場>瀬戸市立図書館 1階 集会室 <参加者>学生運営委員7名、プロジェクトメンバー5名 <内容>自己紹介、ビブリオバトルの概要説明、活動内容の確認等</p> <p>8月17日 第2回学生運営委員会 <会場>瀬戸市立図書館 1階 集会室 <参加者>学生運営委員8名 <内容>役割分担、ビブリオバトル記念品の内容検討、高校生読書活動啓発グッズの検討、ポスターデザイン考案、高校生向けおすすめ本の選書</p> <p>9月10日 第3回学生運営委員会 <会場>瀬戸市立図書館 1階 集会室 <参加者>学生3運営委員名 <内容>SNSを使った広報活動の形式・媒体決定、ポスターや配布物等のデザイン進捗</p>

確認、当日の装飾について

- 10月2日 公式Instagram「ビブリオバトル 大学コンソーシアムせと 2023」の運用開始
＜内容＞ビブリオバトルの広報、学生運営委員のおすすめ本を紹介
＜運用期間＞2月29日まで
- 10月8日 第4回学生運営委員会
＜会場＞瀬戸市立図書館 1階 集会室
＜参加者＞学生運営委員6名
＜内容＞リハーサル、配布物デザイン決定、当日装飾決定、当日スケジュール確認
- 10月13日 参観者募集チラシ及び読書啓発グッズの配布
＜内容＞学生運営委員がデザインしたチラシ及び読書啓発グッズ(ブックカバー用台紙)を配布
＜配布先＞市内公共施設、市内公立高校、聖カピタニオ女子高等学校、聖霊高等学校、市立中学校、近隣図書館(愛知県、尾張旭市、日進市、長久手市、名古屋市守山)、大学コンソーシアムせと加盟大学図書館
- 11月12日 「大学コンソーシアムせと 高校生ビブリオバトル2023」
＜会場＞瀬戸市立図書館 1階 集会室
＜参加者＞34名
※内訳：学生運営委員8名、プロジェクトメンバー5名、発表者4名、事務局4名、参観者12名、特別審査員1名
＜特別審査員＞テレビ愛知アナウンサー 長江麻美氏
＜内容＞ビブリオバトルの実施、長江麻美氏によるトークショー
- 11月12日 第2回プロジェクトメンバー打ち合わせ・第5回学生運営委員会（合同開催）
＜会場＞瀬戸市立図書館 1階 集会室
＜参加者＞学生運営委員8名、プロジェクトメンバー5名
＜内容＞反省事項等
- 11月12日 「大学コンソーシアムせと 高校生ビブリオバトル2023」をYouTubeで配信開始
＜内容＞YouTubeチャンネル「瀬戸市立図書館」でビブリオバトルの動画及び長江麻美氏のトークショーを一般公開
＜公開期間＞令和6年3月31日まで
- 2月23日 2023年度「大学コンソーシアムせと」活動成果報告会
＜会場＞瀬戸蔵2階 つばきホール
＜発表者＞学生運営委員3名
＜内容＞今年度事業の活動成果報告

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

ビブリオバトル参観者にアンケートを行った結果、中学生～大学生の参観が少ないことが分かった。高校生に関しては、瀬戸市内の公立高校4校、私立高校2校に参観募集チラシを配布したが、高校生の参観者は0名となってしまった。新たな本との出会い・読書というものへの関心を引くイベントであるため、今後は、本に興味を持たない方でもビブリオバトルに行ってみようと思われるようなきっかけ(キッチンカーの招集等)作りが必要と思われる。

また、瀬戸市立図書館では長期にわたって継続的にビブリオバトルを開催している。その結果、地域にビブリオバトルが定着してきていると考える。今後も継続して開催することで、ビブリオバトルに対する地域社会の関心を高め、図書館という居場所の魅力を発信する機会としたい。

(注) プロジェクトに関する参考資料がある場合は、A4サイズで添付してください。